

詠む広場

毎日俳壇

西村 和子 選

井上 康明 選

片山由美子 選

小川 軽舟 選

降り出して地下へくぐり込むどんたく隊

福岡市 山本 眞弓

△評▽どんたくのパレードは、雨が降ったくらいではめげない。「くぐり込む」の勢いが、効果的。いかにも都会の祭りらしい。

見物のあてこそ神輿昇

白井市 毘舎利道弘

△評▽見物人が多いほど勇み立つのが、人情というもの。見ている人々も加勢しているのだ。

雨あがるおいでおいでと黒揚羽

伊勢市 古野 政木

新緑や奏楽堂にハーピスト

伊勢市 奥田 豊

おおでまり大型天のおとなしく

香芝市 山本 合一

脱ぎ散らす癖を叱りて梅雨近し

岡山市 岩橋のり輔

緑陰に傘のまま入り立ち話

取手市 杉野 龍児

風薫る馬のたてがみをたをと

池田市 後藤 和豊

あご干して猫のうろつく浜辺かな

相模原市 はやし 央

燕の子人の行き来を見て育つ

小田原市 林 梢

探石の島の切り立つ梅雨夕焼

周南市 九内 千沙

△評▽切り出された石は、城の石垣に使われたこともあっただろう。島の探石の跡は切り立ち、梅雨の間の一瞬の夕焼けに染まる。

梧桐の覆ひ隠せし父母の墓

相模原市 はやし 央

△評▽アオギリのみずみずしい葉が影を作り作者の父母の墓を覆い隠す。さまたまな思い出とともに。

万緑や山山の声雲の声

唐津市 梶山 守

遙か来て尖塔の街麦の秋

浜松市 久野 茂樹

桜桃の色に灯りし仏間かな

寒河江市 大谷 正行

手を合はせ玉葱を受く尼僧かな

高知 渡辺 哲也

初夏の街へこぎ行く車椅子

真岡市 小川 充

北岳の風に乗せたり石鱗玉

東久留米市 夏目あたる

夏空に突込むジェットコースター

平塚市 日下 光代

釘付けになりし夜店のひよこかな

北杜市 小松 俊隆

時鳥待てばこだまの降るごとし

明石市 村上 絹恵

△評▽ホトトギスは、特徴のあるけたたましい声で鳴く。「降るごとし」に、上空を飛び交いながら鳴く様子がとらえられている。

徹の香やこれはあの世のほひかも

白井市 毘舎利道弘

△評▽あの世の匂いなど誰も知らないが、えたいのしれないカビの匂いが想像をかきたてたのだ。

参詣の行き来に見たり蝮草

神戸市 常澤 俣子

よく笑ふ方が妹さくらんぼ

和歌山市 福本 秀昭

しなやかに風音ひろげ今年竹

川口市 高橋さだ子

艇庫より引き出すボート風薫る

出雲市 石原 清司

マンションの地下天井に夏燕

さいたま市 生田 治郎

アイリスの花びらつたふ雨しづく

町田市 枝澤 聖文

縁側の戸を開け放つ立夏かな

飯塚市 倉田 幸男

一列にランドセル行く若葉風

羽村市 島田 陽子

シユラフと打つ寝返りや星涼し

加古川市 伏見 昌子

△評▽「シユラフと打つ寝返り」に登山のテント泊まりの実感がある。顔を出すと山上の星空が涼しく広がっている。

夏きざす鎌倉までの十五駅

龍ヶ崎 小宮 光司

△評▽駅を数えているところに童心を感じた。海が近づくにつれて景色が初夏らしく輝く。

夏めくや中庭のある喫茶店

八女市 水町 好江

田植時いそいそ帰る教師をり

橋本市 米澤 俊江

自分への褒美ビールにしくはなし

甲府市 村田 一広

トンボ引く新入部員花婿

熊谷市 根岸 曼平

新緑やバックミラーに姫路城

姫路市 那須 修二

またカフカ読みたくなりぬ炎天下

柏原市 類家 有二

万緑や忘れ形見の母の椅子

松戸市 横田しず子

ちぎれる程尾をふる犬や放哉忌

八千代市 若松トモエ

アプリで

短歌 推し

短歌アプリ「57577」の投稿からユーザー人気をふまえ歌人の天野慶さんが選歌と評を担当します。金3首、銀3首を掲載し、他の選歌はアプリ内で紹介します。アプリは右のQRコードから。



短歌アプリ

57577



お題「雨」(投稿数1,257首)

・雨宿り入ったコンビニ君がいた傘と心の準備がなくて ちえ

予報外れの土砂降り……。困ったなあ、とお店の中から雨を見上げています。隣に、こんなふうにドキドキしている子がいるかもしれません。まずは深呼吸して、前髪が乱れていないかチェックして！

・もっ今日どこにも行けなく雨脚が強まっていく。返事もきかず ナースチェンタ 誰かから行動を強制されるのはあまり心地よいものではありません。でも「行くな」と自分を閉じ込めるのは雨。雨というよりもっと大きな、空や自然かもしれない。結句の念押しが効いています。

・青空がグレーにみえる午後三時F.M.ラジオで雨が降り出す 羽流乃雪 けたる空の下に流れるのは、ラジオの音。それも音楽ではなく雨の音です。遠くの雷の光と音がずれていくように、滴から独立して、雨音だけがラジオから届いたような不思議な感覚になります。

・傘持たず出かける朝はきみを信じてまた傷つくのに似ている 三笠山出月

・雨音に四方八方ふさがれてひとりなのだと気づく日がある 大森朋美

・波うつてあなたの文字も滲んだノートあの日雨をばくは持つてる ペリドット

次回のお題「文」(7月27日掲載)



こちらから投稿できます

dan/

複数の変はタブを